

令和2年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

令和2年9月8日（火）
学校関係者評価委員会作成

第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和2年9月8日（火）午後14時40分～

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

古屋 雅樹（藤田区自治会長，学校評議員）紙面協力
深澤 喜久（浅原区自治会長，学校評議員）
飯野 章（元学校長，教育ボランティア，学校評議員）
深澤 美香（主任児童委員，学校評議員）紙面協力
三井 亜紀（PTA 会長，学校評議員）紙面協力
宮里絵里花（PTA 副会長，学校評議員）
河野 瑞穂（校長）
志村 泉（教頭）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤児童アンケートの内容と結果について
- ⑥教職員自己評価シートの内容と結果について
- ⑦まとめ：学校評価から見られる成果や課題，ならびに改善策について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員自己評価の結果は，すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め，学校長の指導の下，学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

また，全校児童のアンケートの集計結果は，全10の質問項目中，肯定的評価が90%以上の項目が6つ，80%以上の項目が3つ，78%の項目が1つであり，全体的に肯定的評価が多い。児童の学校生活は概ね満足していると考えられる。引き続き，一人ひとりの児童を大切にした指導を充実させ，主体的に学ぶ児童の育成の取り組みに期待したい。

II 第2回学校評議委員会の中で出された主な意見

学校生活について

- 子供たちのアンケート結果が肯定的であることは、先生方のご指導の賜物である。本当に感謝したい。どうしてもマイナス評価はあるが、先生方が共通の認識をもって、寄り添っていただきたい。「学校は楽しい」が一番である。どの子にも居場所があると感じられるように、引き続き目を配ってほしい。
- 今、コロナで行事の見直しや精選を行わなければならないだろうが、行事は子供を育てる良い機会である。制約がある中でも、主体的活動が「居場所」につながるように引き続き、検討と実施をお願いしたい。また、コロナ対策と子供たちの心のケアもバランスよく取り組んでほしい。先生方の健康も維持できるようにお願いしたい。
- アンケートから、解決に向けて努力されていることに敬意を表す。子供たちが「元気に大きな声であいさつできること」を目指してほしい。また、「自分から先に」あいさつしてほしい。結構あいさつしてくれてうれしい。
あいさつは「大人になっても社会に出ても大切なこと」、いじめは社会からなくなることかもしれないが、保護者がきちんと伝えていきたいと思った。
- 「困った時に誰かに相談できる」の否定的評価が多いように感じる。SNS等で小学生が連れ回される事件も起こっている。児童には、家族や親、先生に気軽に相談できるようになってほしい、先生方・保護者には早く情報をキャッチできるようになってほしい。特に「いじめや悪いことをしている人を見たら先生や友達に言えますか？」に対し否定的な回答のゼロを目指してほしい。また、そうなってしまってもしっかり対応できる体制を構築してほしい。
- 学校教育目標の具現化に向けて、知徳体の調和のとれた教育活動を進めていってほしい。それぞれの領域でバランスよく、あいさつ運動などは児童会と家庭・地域が連携して取り組んでほしい。

学習について

- 子供たちが意見を言いたくても言えない状況は、コロナの影響もあると思う。「学び合い」の学習を進めていく中で、一人一人の考えを大事にしてほしい。また、放課後などを利用して、質問できる時間をとるなど工夫してほしい。
- 家庭学習と基本的な生活習慣はおおに関係しているのではないかな。よりよい生活習慣が児童に定着する取り組みを指導してほしい。

まとめ

- 苦手なことに力を入れることも大切であるが、一人一人みんな違う個性を持った子供である。子供が自己肯定感を高められるよう、「自信を持たせ、個性を伸ばす」ことに結び付く取組を期待する。
- 学校運営は良いと感じた。しかし、アンケートの回答がすべて正確に反映しているとは限らないので、結果に安心することなく、学校・家庭・地域との連携をさらに強固にし、より良い教育に協力していきたい。

Ⅲ今後の改善策・重点課題について

学校生活について

- わかる授業に向けての改善をさらに進め、「授業が分かる、授業が楽しい」と思えるよう一人ひとりの児童を大切にしたい授業を展開する。学習意欲が高められる工夫を積み重ねる。
- 児童一人ひとりが自己肯定感を持ち、居心地の良い学校づくりに努める。
- 困ったことなどがある場合、誰にでも相談できる体制づくりに努める。学校は、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で臨む。

家庭生活について

- 家庭学習の習慣について、より一層家庭の理解と協力を得られるよう、取り組みを進める。
- 学校と家庭と地域との連携をより密にしていく中で、よりよい生活習慣づくりを進める。